

畜産みやぎ

題 字
宮城県知事 村井嘉浩
発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編集発行人
佐々木 琢磨
印刷所
(株)東北プリント



干支《卯》

もくじ

CONTENTS

会長年頭挨拶……………2	農業大学校生の抱負……………9
知事年頭挨拶……………3	畜試便り……………10
令和4年度 多様で特色ある県畜産物の 生産消費促進事業のご案内……………4	馬事畜産振興の活動報告……………11
飼養衛生管理基準について……………5	価格安定対策事業の発動状況について……………11
第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会を終えて……………6	賀春……………12
第62回仙台牛枝肉共進会終了報告……………7	
2022東日本デイリースhower 出品結果……………8	
令和5年度 アカバネ病予防接種の実施について……………8	
衛生便り……………9	



**みやぎの
畜産情報
発信基地**

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



〈会長年頭挨拶〉



一般社団法人 宮城県畜産協会
会長 佐々木 琢 磨

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症も第8波を数え、経済の低迷が続く中、ウクライナ情勢が加わり、畜産業界のみならず、国民生活にも多大な影響がありました。さらに円安や原油価格の高騰はかつてない飼料や生産資材の上昇を招き、全ての畜種で経営に深刻な影響を及ぼしています。特に酪農では、生乳需給のアンバランスを招き年末年始にかけては生産抑制対策が講じられるまでに追い込まれています。国をはじめ支援対応策が取られておりますが、まだ先が見えない不安定な状況が続いています。

また、家畜伝染病の高病原性鳥インフルエンザについては、国内で10月に発生が確認され、11月には県内でも発生し1.8万羽が殺処分されました。年明けまでに55例の発生が確認され、過去最多の905万羽の殺処分が実施されました。今後より一層の飼養衛生管理の徹底が求められています。

枝肉価格につきましては、牛肉は新型コロナウイルス感染拡大を受け、消費の低迷により前年より低調で推移しました。豚肉は一時的にはコロナ禍以前の価格を上回る高値で推移しましたが、消費の低迷の影響を受けました。昨年10月からは海外からの入国者数の上限が撤廃される等、新型コロナウイルス感染症の水際対策が

大幅に緩和され、今年1月からは全国旅行支援も再開となります。インバウンド消費や外食需要の増加により、食肉価格の回復も期待される所です。

また、昨年はコロナ禍の中、入場人数を制限する等新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、3年ぶりに宮城県総合畜産共進会の肉用牛の部と肉豚の部を開催することができました。肉用牛の部は10月に開催された第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会の最終予選会も兼ねて行われました。宮城県代表牛は全9区中6区で優等賞に入賞されました。出品された方々の健闘を称えますと共に、関係者の皆様方のご尽力に敬意を表します。

残念ながら乳用牛の部については、新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止となりましたが、今年からは感染対策を行いながら全部門の開催ができるよう尽力いたします。

さて、このような情勢の中、本協会といたしましては、国や県等関係機関と連携し、この難局を乗り切るため各種の支援対策に積極的に取り組むとともに、肉用牛の増頭対策をはじめとする畜産経営基盤の体質強化、経営支援、価格安定対策、家畜衛生対策、家畜改良の諸事業を引き続き実施して参りますので、関係機関及び会員の皆様方のさらなるご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

昨年、第104回全国高等学校野球選手権大会にて仙台育英学園高校が東北勢悲願の初優勝を果たし、チーム一丸となって戦った姿に宮城県民のみならず東北全体で歡喜いたしました。そして、今年卯年、畜産業界にとりましてはまだまだ厳しい状況が続く中、関係者一丸となり英知を結集して、この難局を乗り切るべく尽力し、飛躍の年となりますよう祈念するとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

〈知事年頭挨拶〉



宮城県知事 村井嘉浩

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるに当たり、県民の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。また、昨年7月に発生した大雨により、人命への被害こそ避けられたものの、県北部を中心に大規模な冠水等による被害が生じました。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

昨年は、宮城県制150周年の節目の年でありました。宮城県制150周年記念事業として、様々な観光キャンペーンや催しを実施し、本県の歴史や伝統、文化を県内外に発信するとともに、郷土への更なる愛着を醸成し、魅力あふれる地域づくりの契機となるよう取り組んでまいりました。また、仙台育英学園高等学校が第104回全国高等学校野球選手権大会において東北勢初となる優勝を果たしました。東北の高校球児が長年にわたり挑戦を続けてきた大きな壁を、チーム一丸となって乗り越えたその姿は、東北全体に大きな感動と希望を与えてくれました。

昨年10月には、第12回全国和牛能力共進会鹿兒島大会が開催されましたが、本県からは21頭の代表牛が参加し、9区分のうち6区分で優等賞を獲得しました。御協力いただいた出品者や関係者、関係団体の皆様に厚く御礼申し上げるとともに、次回の北海道大会ではより一層宮城県らしい牛群を披露することができるよう、引き続き出品対策や支援を進めてまいります。

また、昨年3月と11月には、県内で高病原性

鳥インフルエンザが発生いたしました。飼養衛生管理基準の周知や指導を行い、再発防止に努めてまいりますとともに、昨年初めて県内で発生した豚熱についても、経口ワクチンの散布など、発生を未然に防ぐための方策を引き続き実施してまいります。

さて、社会情勢がめまぐるしく変化する中、県政は今、様々な行政課題に直面しており、特に、長期化するコロナ禍と物価高騰は、県民生活と地域経済に深刻な影響を及ぼしています。畜産分野におきましても、燃料や配合飼料等の生産資材の高騰が続いており、畜産経営が危機的状況に置かれているといえます。本県の財政運営は、社会保障関係経費の増加に加え、新型コロナウイルス感染症や物価高騰への対応等により、依然として予断を許さない状況にあります。緊急を要する施策については、今後とも柔軟な予算執行に努め、万全の対策を講じてまいりたいと考えております。

今年は「新・宮城の将来ビジョン」の3年目に当たり、本格的な人口減少局面を見据え、次の世代を育成・応援する施策を重点的に推進してまいります。特に、DX（デジタル・トランスフォーメーション）による「変革みやぎ」の実現に向け、あらゆる分野でデジタル技術をフル活用し、県民サービスの向上や県内産業の活性化などを図るとともに、昨年度創設した次世代育成・応援基金を活用した若者の県内定着や子ども・子育てを社会全体で支える環境整備、頻発化・激甚化する自然災害から県民を守るための災害に強い県土づくり等の取組を重点的に推進いたします。

宮城県誕生から150年という長い歴史の中で、先人達が積み重ねてきた志を胸に、宮城の力を成長させ、県民が活躍できる機会と地域の魅力にあふれ、元気で躍動する宮城を目指して取り組んでまいりますので、今後とも御理解と御協力をお願い申し上げます。

令和4年度 多様で特色ある県畜産物の生産消費促進事業のご案内

宮城県農政部畜産課

宮城県では、意欲ある中小規模の養豚・採卵養鶏生産者を支援し、畜産の労働生産性向上・食品産業との連携強化による持続的な地産地消を推進するため、4月より「多様で特色ある県畜産物の生産消費促進事業」を実施しています。

(1) 「あなたの推しはどの卵？きみ（黄身）に夢中選手権」を開催します！

県内では多様性に富んだ独自の銘柄たまごが生産されています。そのような中、生産費の急騰により、適正価格での鶏卵販売が求められているところです。そこで、県産卵の多様な魅力を発信、認知度向上を図るとともに、消費者が卵の生産現場を身近に感じられる機会を設け、県産卵に対する消費意識を創出することを目的に開催します。

開催場所：J R仙台駅東西通路

開催日：令和5年1月27日(金)～29日(日) 平日は午前10時から午後7時まで、土日は午後6時まで

イベント概要：入場料500円で気になる卵を6個まで殻の中から自由に採集、持ち帰って食べ比べ

(2) 「みやぎ、豚と卵のフードマルシェ」を開催しました！

令和4年11月3日(木)から5日(土)にJ R仙台駅2階改札前コンコースにて、「みやぎ、豚と卵のフードマルシェ」を開催し、大変盛況な賑わいとなりました。

本マルシェでは、宮城県内で独自に生産されている銘柄たまごや銘柄豚肉を活用した商品を中心に販売いただくことで、多様で特色ある県産銘柄畜産物の消費促進・認知度向上を図るとともに、食品事業者による継続的な県産銘柄畜産物の活用を働きかけました。

御出展いただいた各事業者様にこの場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。



※卵皇のクレープは何度も
補充入荷するほど大人気



※竹鶏卵を活用したスコーンを
購入されるお客様



※出展会場の様子花たまごとスイーツ

出展事業者：(敬称略・順不同)

株式会社宮城県食肉流通公社(豚精肉等)・プリマル(プリン)・株式会社花兄園ファーム(プリン・シフォンケーキ・卵等)・自然卵農園株式会社(クレープ・プリン・チーズケーキ等)・株式会社ほの香(スコーン等)・UPIBAKER※株式会社ソウルロジス(パン・卵)

補助事業の募集等、本事業の情報は、県畜産課HP(以下URL)にて随時公表しています。

畜産業 <https://www.pref.miyagi.jp/life/7/79/index.html>

(生産振興班 山崎 保奈美)

飼養衛生管理基準について

宮城県農政部 家畜防疫対策室

平成16年に制定された飼養衛生管理基準は、平成23年の家畜伝染病予防法改正に伴い改正されました。この改正は、平成22年の宮崎県での口蹄疫発生を検証した結果、家畜の伝染性疾患の発生を予防するためには、家畜の所有者が日頃から適切な飼養衛生管理の徹底が重要であるとの結論からであり、全家畜の所有者は衛生管理区域の設定や立入の制限、埋却等の準備など大幅に拡充された飼養衛生管理基準の遵守が義務づけられました。

また、令和2年7月1日に飼養衛生管理基準が大きく改正され、各項目が取組の目的ごとに体系化されるとともに、遵守基準が具体化され、農場にとってより理解しやすいものとなりました。

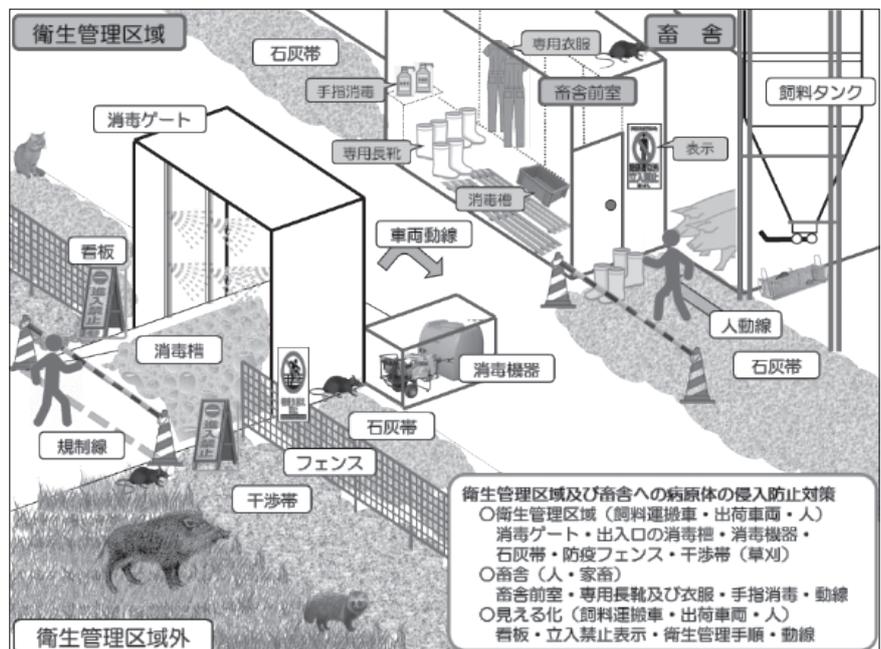
さらに、令和3年10月1日付けで飼養衛生管理基準がより強化され、「畜舎ごとの飼養衛生管理者の配置」、「大規模農場における防疫計画の作成」、「埋却に係る準備措置」等が基準に新設されました。これらは、衛生管理の責任者を1人ではなく複数配置することで、農場全体でより厳格に基準を遵守させることや、疾病発生時により迅速に防疫措置を完了させ、病原体の拡散を防ぐこと等を目的としたものです。

一方、平成30年9月、26年ぶりに国内で豚熱が確認され、令和4年9月までに85事例の発生があり約35.4万頭が殺処分されました。加えて、野生イノシシにおいても、現在まで32都府県で陽性事例が確認され、感染が拡大しています。

また、高病原性鳥インフルエンザについては、令和4年12月12日時点で34事例の発生が確認され、約472万羽が殺処分されており、すでに令和2年及び令和3年の発生事例数及び殺処分羽数を大きく上回る状況となっております。このような中、これまで以上に飼養衛生管理基準の遵守の徹底による防疫対策の強化が求められています。

飼養衛生管理基準は、「家畜の伝染性疾患の発生を予防するため、家畜の所有者が日頃から適切な飼養衛生管理を遵守し、病原体を家畜（牛、豚、鶏等）に接触させないための方策（衛生管理区域の設定、区域や畜舎への入退場時の消毒等、車両消毒、畜舎の清掃消毒等）を適切に行うこと」です。更に、万が一伝染性疾患が発生した時に、迅速なまん延防止を図るための埋却地の確保も家畜の所有者の責務として、飼養衛生管理基準に記載されています。

飼養衛生管理基準の詳細は、農林水産省消費・安全局ウェブサイト (https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_shiyuu/index.html) に掲載されています。所有する家畜を疾病から守るための基本的な取組事項や伝染性疾患のまん延防止対策が示されていますので、家畜の飼養者の方々、家畜の診療に関わる獣医師の皆様は必ず閲覧してください。内容で不明な点は、最寄りの家畜保健衛生所又は畜産振興部にお問い合わせください。



(衛生安全班 佐藤 浩庸)

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会を終えて

宮城県小牛田農林高等学校

私たちは第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会（以下、「全共」）に生物部調教班として出場しました。調教班は前回の全共宮城県大会に出場することを目標に正式な部活動として設立しました。しかし、宮城県大会では県代表には選ばれず先輩方はとても悔しがっていました。今回、全共鹿児島大会に出場する機会をいただき、1席を獲得するという大きな目標を掲げて日々の活動に取り組みました。「わさび号」は生まれてから6か月間、新型コロナウイルスの影響で地域の方から直接指導を受けることができず不安でしたが、調教班や畜産専攻班の先輩から受け継いできた調教技術や牛との接し方を生かして、自分たちなりに管理をしてきました。その成果として、「わさび号」は人を蹴ったり角を向けたりすることのないとても優しく賢い牛に成長しました。

令和4年3月から調教を開始し、調教指導員やJA新みやぎの方から指導していただきました。そこで私たちの知識と技術不足を痛感し一つ一つ改善していきました。全共に向けては学校の休耕畑をロータリで耕し、わごと水を含ませて足場の悪い環境をつくり1時間の引き運動を行いました。これを続けた結果、「わさび号」は体力が向上し、後躯の張りも見られました。しかし、トレーニングのオーバーワークや飼料の制限から体高や体積感を最大限に発揮することができなかつたという大きな反省もありました。

全共会場では、宮城県代表生産者さんの飼養管理や牛の手入れ方法を間近に見学とお手伝いをさせて頂き大変勉強になりました。さらに、全国の優秀な種牛とそれらに携わっている方の意気込みの凄さや迫力を肌で感じることができ、圧倒されることばかりでした。しかし同じ「特別区」に出品する他校の方とも交流ができ、全国に仲間を作ることができたことを嬉しく思います。

ハンドラーの只野悠人は「鹿児島県や宮崎県の牛を超える」という目標を掲げていました。周りの牛に影響されることなく「わさび号」を最高のかたちで披露できたと実感していますが目標を達成することができずとても悔しく思っています。将来、農業高校の教員を目指しており、自分の知識や牛の管理技術を高めて、高校生に農業の魅力を伝えて農業に携わる人材を育成するとともに、宮城県の高校生と全共で優秀賞第1席を獲得したいという新しい目標ができました。

取組発表者として出場した佐々木律は、全共では最高評価をとることを目標に練習してきました。本番では今までの練習の成果をぶつけたものの最高評価をとることはできず、全国のレベルの高さを痛感しています。ですが、今回の全共で学んだことを生かし、将来は和牛農家として全共の「肉牛の部」で日本一を獲得するという目標ができました。今回2人とともに、全共に行ったメンバー5人の内3人は1年生ということから、今回の全共で学んだことを5年後の全共北海道大会に向けて、さらに後輩に継承して欲しいとも思っています。

最後に、先輩方の活動が始まって10年目の今年、「わさび号」を全共の場で披露することができました。ここまでの成果は、御指導いただいた地域の皆さんや関係機関の方々と、調教技術を継承してくれてくれた先輩方のおかげです。皆様に感謝したいと思います。本当に貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

(生物部調教班 只野 悠人・佐々木 律)

第62回仙台牛枝肉共進会終了報告

全農宮城県本部

農林水産祭参加 第62回仙台牛枝肉共進会は、11月6日～8日の期間で仙台中央食肉卸売市場において開催され、盛会のうちに終了しました。

《チャンピオン牛》

第1部 黒毛和種 去勢の部

出品者 株式会社 川村ファーム (JAいしのまき)
血統 父: 福之姫 母の父: 美国桜
規格 A-5 BMSNo.12 枝肉重量 686.5kg
枝肉単価 6,355円

第2部 黒毛和種 メスの部

出品者 小野寺 充洋 (JAみやぎ登米)
血統 父: 美津百合 母の父: 美国桜
規格 A-5 BMSNo.12 枝肉重量 501.5kg
枝肉単価 6,016円

1) 出品財の概要について

第1部 (去勢牛の部)

格付は「A-5」で枝肉重量686.5kg、ロース芯面積は116cm²と非常に大きく、ばらが10.5cmと厚く、皮下脂肪が1.6cmで歩留基準値は高く81.5でした。各筋肉が十分に発達し、肉量豊富で、無駄の見られないところが高く評価されました。

第2部 (メスの部)

格付は「A-5」で枝肉重量501.5kg、ロース芯面積は78.0cm²と優秀で、ばらが9.8cmと厚く、皮下脂肪が2.0cmで歩留基準値は78.0でした。枝肉は各部のバランスが大変優れており、脂質、肉の光沢が良いものが高く評価されました。

2) 審査経過

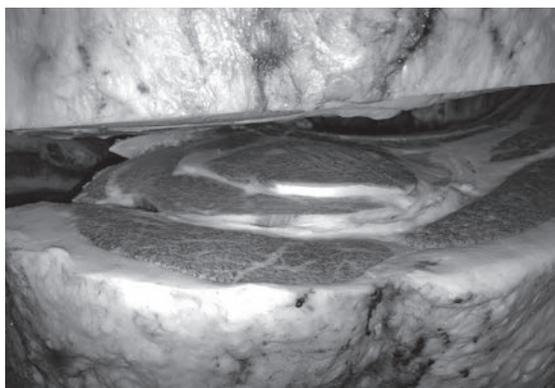
全体については、「歩留」では前回と比較し、枝肉重量は去勢が7.1kg増加した一方、雌が12.6kgと減少しました。ロース芯面積は去勢では0.8cm²大きくなったものの、雌は枝肉重量の減少に伴い4.0cm²小さくなり歩留基準値がやや下がる結果となりました。全体を通し、出品された枝肉の厚みが増し、肉量と各部のバランスの優れた枝肉が多くみられ、歩留等級は「A」等級99.3%、「B」等級0.7%となりました。なお、110頭中15頭でロース芯面積が100cm²以上となりました。

「肉質」では平均BMSNoが0.1増加し、10.4と高く、上位Noが多く見られました。5等級率は94.0%で前回は7.3ポイント上回りました。高率を維持しており、仙台牛の共進会にふさわしい内容でした。胸最長筋の脂肪交雑は申し分なく、枝肉の露出筋肉部の交雑も充実したものが多く、「肉の色沢」「肉締まり及びきめ」に優れ、牛肉の美味しさに係る要素として重要性が増している脂肪質については「光沢・粘り」とも高品質なものが多く見られました。

仙台牛の名にふさわしい素晴らしい枝肉が揃っており、レベルの高い審査内容となりました。



第1部 去勢の部 チャンピオン牛



第2部 メスの部 チャンピオン牛

(生産販売課 庄司 大樹)

2022東日本デイレシーヨー 出品結果

宮城県ホルスタイン改良同志会

令和4年11月9日(水)に岩手県雫石町の全農岩手県本部中央家畜市場において、2022東日本デイレシーヨーが開催され、宮城県からは6頭出品しました。

オフィシャル審査員は北海道上士幌町酪農家の吉田 智貴氏です。

なお、本県出品牛の結果は下記のとおりです。ご支援ご協力いただきました関係各位並びに会員の皆様方には心から感謝申し上げます。

記

第3部	2位	エイトロール ケーデー ピアレス	大崎市	八巻 誠
第3部	9位	エイトロール キングドック ピア	大崎市	八巻 誠
第5部	5位	エイトロール チエダー オーロラ	大崎市	八巻 誠
第6部	2位	ウツデイランド サンジ キューピッド	角田市	(有) 渡辺ファーム
第7部	10位	ビーチフィールド フラズルド リンカーン	大崎市	濱田 賢志
第12部	9位	ミヤノウ ドアマン T ハーゲン	名取市	宮城県農業高等学校

(事務局：(一社)宮城県畜産協会 家畜改良課)

令和5年度 アカバネ病予防接種の実施について

一般社団法人 宮城県畜産協会

【アカバネ病とは】

アカバネウイルスを保有するウシヌカカ等の吸血によって感染します。

妊娠牛が感染すると胎齢により、流産や胎児の奇形(脊椎や四肢の湾曲)・大脳欠損などの異常産を引き起こします。

平成22年夏から平成23年春頃に、東北地方を中心に大流行し、宮城県でも死・流産や異常子牛が多数確認され、大きな被害となりました。

毎年実施されている「おとり牛」の抗体検査では、令和4年度の県内での陽転は確認されませんでした。これまで、概ね10年周期で流行が見られており注意が必要です。また、近年、ワクチンの接種頭数は減少傾向にあり、ひとたび流行すると大きな被害が発生することが懸念されています。

アカバネ病は、ウイルスによる病気のため、発生してからは治療法がありません。被害を防ぐには、ワクチン接種が最も効果のある予防法です。

母牛には、毎年ワクチンを接種しましょう！

【アカバネ病予防接種の実施】

- ・接種料金：2,140円
- ・接種時期：概ね4～6月が適正です
- ・接種申込：市町村に申込み願います
(大崎地域の和牛は農業協同組合に申込み願います)

【畜主の皆様へのお願い】

- ・事前に牛の健康観察を行うとともに、接種時には、必ず立会い、保定をお願いします。
- ・分娩間際、分娩直後の牛、体調不良の牛については、獣医師と相談の上で、接種するようにしてください。
- ・立会がない場合は、接種できないこともあります。事故防止のため、ご協力をお願いします。

(家畜衛生課 早坂 翔太)

〈衛生便り〉

本県における高病原性鳥インフルエンザ(国内16例目)の発生について

東部家畜保健衛生所

気仙沼市において今シーズン国内16例目となる高病原性鳥インフルエンザが発生しました。

11月22日、養鶏農家から多くの鶏が死亡していると東部家保に通報がありました。約1,000羽の鶏が死亡しているとの通報でした。当所職員が農場に立入り、インフルエンザの簡易検査陽性を認め、仙台家保の遺伝子検査により、高病原性鳥インフルエンザの疑似患者と確認されました。

翌11月23日午前11時から防疫措置に着手し、鶏の殺処分、汚染物品の処理、清掃・消毒等が行われ、11月24日の午後8時45分に完了しました。残余飼料は埋却とし、殺処分鶏は焼却処理としました。作業には、宮城県建設業協会やバス会社等民間団体の職員、市や県の職員延べ1,143人が対応にあたりました。殺処分鶏18,340羽は約2,000のペールボックスに密封され12月3日に焼却を完了しました。

その後は、発生農場周辺での異状は認められず、鶏等の移動・搬出の規制は12月16日までに全て解除されました。

国内では、12月20日現在、飼養鳥の高病原性鳥インフルエンザ発生は43事例を数え、また、野鳥での確認も相次いでいます。今年例年になく早い時期から多くの事例が確認されており、このことは今後も全国各地でも発生する可能性があることを示しています。

養鶏業及び関係者の皆様には、危機感を共有し、改めて防疫対策の徹底を図ることが大変重要です。鶏舎周囲の消毒、鶏舎専用衣服・長靴への交換、手指・長靴の洗浄と消毒、異状発見時の家保への通報等、これらをあたりまえの取り組みとするよう、最大限の努力をお願いします。



(防疫班 高田 直和)

〈農業大学校生の抱負〉

農業大学校畜産学部に入學して

宮城県農業大学校 畜産学部2学年 松本 明依



私の祖父母は水稲とスイカを栽培する兼業農家です。そのため小さい頃から収穫や栽培作業を手伝っていました。畜産業ではありませんでしたが、作物の成長を見ることや育てることに興味がある子供でした。中学3年生の進路で悩んでいる時に、宮城県で行われた全国和牛能力共進会に出品されていた宮城県柴田農林高等学校の「ゆうひ号」を見て、和牛に興味を持ち柴田農林高校に入學を決めました。

高校では実習を通して牛の飼養管理や生態について学びました。私はさらに牛の知識や削蹄について深く学びたいという思いから、宮城県農業大学校に進學しました。

1年時では名取での授業が多く牛についての学習は少なかったものの、1ヶ月農家さんの元で行う先進農業体験学習では登米の繁殖肥育一貫の農家さんで学習を行った事は自分にとって大きな知識と経験になりました。

2年時では岩出山教場での授業がほとんどを占め、畜産について学ぶことが増えました。また畜産ならではの人工授精講習会や削蹄認定試験、家畜商講習会は分からない事だらけでしたが、大学校の先生はじめ畜産試験場の研究員や職員の方々、削蹄の講師の先生方にご指導頂き資格取得することができました。

特に高校から学習したいと思っていた削蹄においては、夏休みで行うインターン研修で仙南の削蹄師さんお二人に同行し、5日間削蹄を見て実際に削蹄をさせて頂いたことは今でも忘れません。削蹄において技術は勿論のこと、農家さんとのコミュニケーションも大切に感じました。私は今まで畜産という分野で多くの方から支えられてきました。私も今の私のような人たちをこれから支えていけるような人間になりたいと思います。

〈畜試便り〉

受精卵の移植前遺伝子解析について

宮城県畜産試験場

高能力雌牛から受精卵を作出し受胎牛に移植し子牛を生産することで家畜改良の速度向上が期待できます。加えて、移植前に受精卵の一部を採取し、受精卵の段階で遺伝子評価を行うことで高い能力が期待できる受精卵を選択して移植することでさらなる家畜改良の精度や速度向上およびターゲットとする遺伝子を保有した子牛を効率的に生産することが可能となります。

これを実現するために畜産試験場では、金属刃を装着したマイクロマニピュレーターにより受精卵の一部をバイオプシーし遺伝子解析用のサンプルを採取、採取したサンプルは1塩基多型（SNP）解析のため全ゲノム増幅を実施しています。

SNP解析は、通常は血液や毛根を用いていますが、受精卵の場合採取したサンプルのDNA量が少なく全ゲノム増幅する工程が一つ増えることとなります。全ゲノム増幅したサンプルは外注によりSNP解析を実施し、結果を求めています。

まず、採取したサンプルの全ゲノム増幅の精度を知るために、採取したサンプルと残りの胚の一致率を調べました。表1にはSNP解析精度の指標であるCall rateの結果を示しました。体内胚（SOV）と経膈採卵（OPU）により作出した胚のバイオプシー細胞62検体および残りの胚22検体合わせて84検体のCall rate90%以上は全体の70%の成績でありました。

次にバイオプシー細胞と残りの胚22組のSNP型一致率を表2に示しました。一致率90%以上は12組であり、それぞれの組のバイオプシー細胞と残りの胚はいずれもCall rate90%以上（92.2~99.6%）でありました。残りの10組の一致率は15.2~89.8%であり、それらのCall rateは23.2~96.4%であり、両方のCall rateが低い場合に一致率が低くなることに加えて、バイオプシー細胞と残りの胚いずれか一方のCall rateが低い場合でも一致率が低くなることがわかりました。

今後はバイオプシー細胞のSNP解析精度向上のための検討および遺伝子診断後に胚を移植することを想定したバイオプシー胚の修復培養方法または凍結方法についての検討を考えています。

表1. サンプル全体のCall rate

	<50%	50-80%	80-85%	85-90%	90-95%	95%<	total
all	8	9	5	3	13	46	84
SOV*1	1	2	0	0	2	17	22
OPU*2	7	7	5	3	11	29	62

*1：体内受精胚（過剰排卵処理-採卵による） *2：体外受精胚（OPU-IVFによる）

表2. バイオプシー細胞と残りの胚のSNP一致率

	<50%	50-80%	80-85%	85-90%	90-95%	95%<	total
all	3	4	0	3	2	10	22
SOV*1	1	1	0	1	0	7	10
OPU*2	2	3	0	2	2	3	12

*1：体内受精胚（過剰排卵処理-採卵による） *2：体外受精胚（OPU-IVFによる）

(酪農肉牛部 及川 俊徳)

馬事畜産振興の活動報告

宮城県地域畜産振興対策協議会

馬事畜産振興推進事業（地方競馬全国協会委託）において、地方競馬並びに畜産物に対する認識を深めるため、下記のとおり普及・啓発活動を行いました。

1 岩手競馬 畜産フェア

地方競馬の振興と畜産物の普及啓発を図るため、令和4年10月2日（日）岩手競馬盛岡競馬場において、宮城、青森、岩手、秋田、福島、山形との6県合同による「畜産フェア」を開催しました。

当日は、開門と同時に各県畜産加工品の引換券を入場ゲートにて、先着1,265名様に配布し、随時引換えを行いました。（宮城200名：蔵王クリームチーズセット、青森150名：とわだ短角牛カレー、岩手200名：ウイナーセット、秋田150名：秋田牛カレー及び男のホルモンセット、福島365名：福島牛ビーフカレー・ビーフシチュー・酪王カフェオレロングパイ、山形200名：米沢牛入りさらみ）

競馬を楽しんだあとの畜産加工品のプレゼントに来場者は大変よろこんでいました。



2 馬事畜産振興現地視察検討会

令和4年12月12日（月）、岩手競馬水沢競馬場において、地方競馬の普及啓蒙に資するため現地視察検討会を開催しました。

JR仙台駅東口より貸切バスにて出発し、車中にて地方競馬の概況説明を行いました。現地視察では、第2レースから第10レースまでの計9レースを観戦し、参加者からは、「久しぶりの競馬で楽しく過ごせた」、「予想以上に人がいて驚いた」等の声をいただき有意義な検討会となりました。

（事務局：（一社）宮城県畜産協会）



価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価

（単位：円）

販売月	肉専用種（宮城県）	交雑種（全国）	乳用種（全国）
令和4年8月（概算払）	(78,273.2円)	(41,755.7円)	(43,320.8円)
精算払	80,027.1円	43,261.2円	44,452.8円
9月 精算払	42,951.6円	21,557.7円	40,458.6円
10月（概算払）	(31,736.0円)	(4,468.7円)	(37,063.1円)

※令和4年7月分以降の概算払いは、配合飼料価格安定制度の発動状況を加味し、算定額から7,000円を差し引いた額の振り込みとなります。（6月までは6,000円）

賀 春

宮城県農業協同組合中央会長	佐々木 琢 磨
全国農業協同組合連合会宮城県本部長	大 友 良 彦
宮城県農業共済組合長理事	品 川 忠 夫
みやぎ農業振興公社理事長	江 畑 正 徳
みやぎの酪農農業協同組合代表理事組合長	伊 藤 一 成
宮城県酪農農業協同組合代表理事組合長	渡 邊 博
宮城県家畜商協同組合理事長	渡 邊 通
全国和牛登録協会宮城県支部長	都 築 祐 一
宮城県ホルスタイン協会長	半 澤 善 幸
宮城県ホルスタイン改良同志会長	千 葉 義 文
宮城県家畜人工授精師協会長	高 橋 清 治
宮 城 県 畜 産 協 会 長	佐々木 琢 磨

